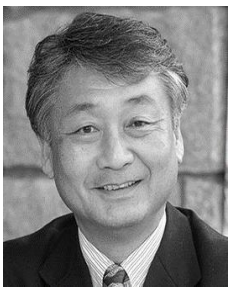
科目名			担当教員	
ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ			三浦　剛・阿部　利江	
科目コード	科目単位	スクーリング単位	履修方法	配当年次
CC3094	2	1	RorSR（講義）	2年以上
履修登録条件		「ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ」をすでに履修登録済みか、同時に履修登録をする方のみが履修登録できます。		
生成 AI 利用レベル		レポート　：　B	試験（スクーリング含む）　：　C	



科目の概要

■科目の内容

面接授業や印刷教材を用いた授業において、総合的かつ包括的支援の意味を理解し、そこで用いられるグループワークやコミュニティワークといった方法について、概念とプロセスを学ぶ。

また、ソーシャルワークにおけるケアマネジメントやスーパービジョン、コンサルテーションといった関連技術についても、その概念を学ぶ。

■到達目標

1）ソーシャルワークが総合的かつ包括的な相談援助であることを説明することができる。

2）集団やコミュニティを対象として支援の概念とその展開について説明ができる。

3）ソーシャルワークにおけるスーパービジョンとコンサルテーションについて理解し説明できる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「俯瞰的な分析力」「倫理的実践力」「開発・創造力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価 40%＋スクーリング評価 or 科目修了試験 60%

■教科書・参考図書

【教科書】（「ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ」と共通）

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座［共通科目］12 ソーシャルワークの理論と方法』中央法規出版、2021 年

※「ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ」で配本のため、この科目での教科書配本はありません。

（スクーリング時の教科書）上記教科書は参考程度に使用します。

【参考図書】

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座［共通科目］13 ソーシャルワーク演習（共通科目）』中央法規出版、2021 年

■事前に学習してほしい科目

「ソーシャルワークの基盤と専門職」を学習しておくことが望ましい。

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

ソーシャルワークの専門性と基盤や倫理を理解し、ソーシャルワークの視点（人と環境の相互作用への視点）、生活モデル、アプローチについて学ぶ。

また、ソーシャルワークのプロセスや専門性についても、具体的な理解が進むように学んでほしい。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	集団に対する援助１	集団援助技術の原理、定義、意義を理解する。さらに、集団をシステムとして捉えた際の、分析方法や介入方法について学ぶ。
2	集団に対する援助２	集団援助技術の展開過程を準備期、作業期、終結期と評価それぞれについて学び、グループダイナミクスに基づいた自助グループやSST など介入の実際、小地域福祉活動やチームアプローチについても学ぶ。
3	コミュニティワーク	地域に対する援助技術の定義、目的、意義、役割、展開過程について理解する。 事例から支援の実際が理解できる。
4	ケアマネジメント１	ケアマネジメントの概念、プロセスについて学ぶ。
5	ケアマネジメント２	ケアマネジメントの概念をミクロ・メゾ・マクロの視点で考察する。
6	スーパービジョンとコンサルテーション１	ソーシャルワーカーが機能する職場を一つのシステムとして考える視点を学ぶ。そこから人材育成の必要性と方法について理解を深める。
7	スーパービジョンとコンサルテーション２	社会福祉分野における人材育成の方法としてのスーパービジョンと、支援の質を向上させるためのコンサルテーションについて学ぶ。
8	事例研究	これまでの学びをもとに、ソーシャルワーク研究の諸方法を確認し、事例検討により支援の実際を学ぶ。
9	スクーリング試験	

※オンデマンド・スクーリングでは、上記の講義内容と異なる場合があります。

■講義の進め方

パワーポイントおよび配付資料を中心に講義を進めます。教科書は参考程度に使用します。

■スクーリング評価基準

スクーリング中に学んだ内容から出題します（自筆ノートと配付資料のみ持ち込み可）。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10 時間）

教科書の第 11 章から第 15 章まで読んできてください。

レポート学習

■在宅学習 15 のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	グループを活用した支援１（第 11 章）他参考図書等	グループワークの意義と目的	グループワークの歴史その実践の意義、ジェネラリスト実践との関係を整理しましょう。また、その目的と目標について理解しましょう。
2	グループを活用した支援２（第 11 章）他参考図書等	グループワークの展開過程	グループワークのプロセスについて、具体的に理解できるように、その実際を参考書などから学びながら、意識しましょう。
3	グループを活用した支援３（第 11 章）他参考図書等	グループワークとセルフヘルプグループ	セルフヘルプグループの実践例などを通して、グループワークの実際を学びましょう。
4	コミュニティワーク１（第 12 章）他参考図書等	コミュニティワークの意義と目的	コミュニティワークとは何か、ソーシャルワークにおけるコミュニティワークの意義を学びましょう。また、住民主体の原則について、ごみ屋敷問題などの支援事例を通して理解しましょう。
5	コミュニティワーク２（第 12 章）他参考図書等	コミュニティワークの展開	地域アセスメントから支援計画の策定までのプロセスを、実際を意識して理解しましょう。
6	コミュニティワーク３（第 12 章）他参考図書等	コミュニティワークの展開	地域組織化、社会資源開発などの方法、評価と再アセスメントを、実際を意識して理解しましょう。
7	コミュニティワーク４（第 12 章）他参考図書等	コミュニティワークの理論的系譜とモデル	コミュニティワークの史的展開を通して、その理論とモデルを理解しましょう。
8	ソーシャルアドミニストレーション１（第 13 章）他参考図書等	ソーシャルアドミニストレーションの概念、定義とその意義	教科書を読み、ソーシャルアドミニストレーションの概念、定義を理解しましょう。
9	ソーシャルアドミニストレーション２（第 13 勝）他参考図書等	組織介入・組織改善の実践モデル	組織運営の実際を、事例などを通して、具体的に理解しましょう。
10	ソーシャルアドミニストレーション３（第 13 章）他参考図書等	組織運営の実際と財源の確保	組織運営の実際を、財源確保を中心に、その方法を具体的に学びましょう。
11	ソーシャルアクション１（第 14 章）他参考図書等	ソーシャルアクションの概念、定義	教科書を読み、ソーシャルアクションの概念、定義について理解しましょう。
12	ソーシャルアドミニストレーション２（第 14 章）他参考図書等	コミュニティ・オーガナイジング	ソーシャルアクションの実際を、コミュニティ・オーガナイジングなどの例を通して、具体的に理解しましょう。
13	スーパービジョンとコンサルテーション１（第 15 章）他参考図書等	スーパービジョンの意義、目的、方法	教科書を読み、スーパービジョンの意義や目的、方法を学びましょう。

14	スーパービジョンとコンサルテーション2（第15章）他参考図書等	スーパービジョンの実際	実例などを通し、スーパービジョンが具体的にイメージできるよう、理解しましょう。
15	スーパービジョンとコンサルテーション3（第15章）他参考図書等	コンサルテーションの意義、目的、方法	ソーシャルワークにおけるコンサルテーションについて、教科書を読み理解し、実例などを通して具体的にイメージできるようにしましょう。

■レポート課題

1単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。
2単位め	グループワーク、コミュニティワーク、スーパービジョンについて、それぞれがソーシャルワークの実践を展開するうえでなぜ必要か述べてください。 その際、定義や目的、展開過程などについてもふれること。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

概念を正確に理解し把握することは当然のこととして、事例などに触れながら具体的イメージを持つこと。

また、これまで学んだソーシャルワークの枠組みを意識して、体系的に理解することに努めてください。

【1単位めアドバイス】

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

【2単位めアドバイス】

教科書以外に参考図書などを用いて、これらが具体的に理解できるようにしましょう。

また、概念を説明するだけでなく、ソーシャルワーク実践における意味にも必ず言及してください。

科目修了試験

■評価基準

1）科目全体の内容について問います。

2）各概念について、正確に理解できていなくてはなりません。

3）題意を正確に把握するように努めてください。

4）800字以上が必要な記述の分量です。